

SYOHEI ニュース 令和5年5月号

総合水沢病院 医療連携室だより

新型コロナの発生から3年数カ月が経ち、やっとコロナ感染者数が減少して経済活動の回復傾向も見られてきているようです。何となくではありませんがコロナ禍からは少しだけ抜け出しつつあるかなという希望的観測を持ちたいこの頃です。



5月8日から実施された感染症法上の2類から5類への移行は、世間的には好意的に受け取られているかもしれませんが、医療に携わる者にとってはむしろ混乱が生じないかと不安な面もあります。

医療現場の中にいる我々は世の中の動きを見ながら周りの施設と連携してゆっくり体制の変更を考えていきたいと考えております。

さて、奥州市は昨年からの地域医療の奥州市モデルという計画を市民に対して表明していますが、その中で新病院建設について、地域医療の連携拠点としてだけでなく周産期・子育て支援センターとしての機能も備えた複合型施設とすることも提案しています。

今後10年20年先の将来を見据えた医療・福祉関連政策として市民の皆さまから大きな期待が寄せられる計画であると思えます。我々は市の医療施設としてのその壮大な計画が少しでも順調に進むことが出来るよう、この圏域における我々の役割をしっかりと果たしていこうと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻およびご協力の程、

よろしくお願い申し上げます。

総合水沢病院院長 医療連携室長

菊池 淳

トピックス 祭り復活 4年ぶり

4月29日 日高火防祭(ひびせまつり)

行動制限が緩和された中、伝統を誇る日高火防祭が4年ぶりに行われ、6台のはやし屋台がみやびやかな音曲を奏でながら運行。好天にも恵まれて多くの観光客が詰め掛け、会場の通りはにぎやかな雰囲気になりました。



岩手日日新聞記事

5月3・4日 江刺甚句まつり

第50回江刺甚句まつりは4年ぶりに通



常開催で行われました。子供甚句パレードは、小中6校の児童生徒と教職員約1350人が参加。法被姿にうち

わを手にした子供たちが元気一杯に声を上げながら江刺甚句を踊り、沿道の観衆を魅了しました。



岩手日日新聞記事

大谷翔平選手の成績ボード (R5. 5. 26 現在)

打者 打率 280 本塁打 12 打点 33 盗塁 6

投手 勝利 5 敗戦 1 防御率 3.05 奪三振 80

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和5年5月26日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833

※ 奥州市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。

奥州市HPの中の「奥州市の先人」コーナー。今回は、地理学者『箕作省吾』をご紹介します。

日本最初の世界地図をつくった：^{みつくりしやうご}箕作省吾（1821年：文政4年～1846年：弘化3年）

箕作省吾は、高野長英と同じ時代に活躍した蘭学者で、日本最初の世界地図をつくった人です。水沢の川原小路に武士の子として生まれ、子供のころから勉強が好きで、12歳ごろには高野長英も教わった水沢の医学者である坂野長安先生について漢学(中国に関する学問)や蘭学(オランダ語の書物で医学・天文学などの研究をする学問)を学んだ。

16歳ごろに江戸に出て、医者いしやの屋敷で奉公をしながらさらに学問に励んだ。その後江戸での勉強では満足できずに京都へ出かけ、磨島松南や仁科白谷等の教えを受けて、蘭学の勉強をさらに深めた。そのかたわらで、関西各地の有名な山や川を訪ね歩き、各地の文化や交通、産業などを見て廻ったことから、地理学にも興味を抱くようになった。

その後、いったん水沢に戻り、坂野先生について学ぶと、「これは阮甫先生の学説である。」としばしば講義の中で話されるのを聴き、初めて「箕作阮甫」が蘭学の大先生であることを知る。省吾は、学問を深く究めたいという強い気持ちを抑えることができず、再び江戸に行き、阮甫先生の面接を受け入門を許される。阮甫先生から蘭学の教えを受けるようになって、省吾はどんどん力をつけ、1842年(天保13年)、省吾の才能と努力にすっかり感心した阮甫先生は、省吾と末娘とを結婚させ箕作家の婿養子にする。

省吾はますます研究に励み、多くの地誌類を読み、特に「地理学」の研究を好んで行った。このようにして省吾が書き残した本の中で、今日まで残っているものは、『新製輿地全図』(万国世界地図)、『坤輿図識』五巻、『坤輿図識補』四巻です。

『新製輿地全図』は1835年のフランス製の世界地図をもとにして書かれ、1844年に銅製印刷で出版された日本最初の世界地図として省吾の手により生み出されました。

『坤輿図識』は『新製輿地全図』の解説書として1845年に出版された。これは、『ニューエンホイス』など14冊もの外国書をもとに書かれ、各州各国の面積や人口、習俗、産業などが記してある。また、『坤輿図識補』は、オランダの書物をもとに書かれ、海外の国々の成立や風俗などが記されている。



新製輿地全図（中段）

そのころから省吾は肺を病むようになり、人生のすべてをかけた仕事を終え、1846年26歳の若さでこの世を去った。血を吐いてまで完成させたこれらの本は、当時日本が開国するかどうかで大騒ぎの中であつたので評判となり、大老井伊直弼や吉田松陰らの学者も争ってこれを参考にし、ときの政治や外交に大きな影響を与えた。